

令和3年8月25日

## 南の風 2021 インターハイ女子特集号Ⅱ

南部地区ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

今回はインターハイ女子ベスト4のチームを取り上げます。

まず優勝した桜花学園です。昨年はアマカ選手という、留学生の絶対的エースと、江村選手というスパークレーメーカーがチームを引っ張りました。

今年の桜花学園はオンザコートの5人が、自分の持ち味を発揮して、『何処からでも攻める』というスタイルでした。キャプテンの朝比奈選手、シューターの平下選手、目立ちませんが、ここ一番の場面でチームに貢献する伊波選手、シュートタッチが鮮やかな横山選手らの総合力で優勝を果たしました。また前田選手、森選手、玉川選手もスターターと同じようにチームをしっかり支えることができました。

朝比奈あすさ選手は中学（洋光台第二中）時代、私たちがやっているスピカバスケットボール教室に在籍していたので、ずっと見守り応援しています。彼女の素晴らしい点は『常にチームのためにプレーする』といった精神や姿勢です。特集号Ⅰにも書きましたが、彼女はボールが入ろうが入るまいが、ポストでのポジション取りを止めることはありませんでした。それによって相手は、どうしてもポストへの注意力をおろそかにすることできません。するとドライブやシュートに対して、ヘルプに行きにくくなり周りの選手が攻めやすくなります。数字には表れないアシストを何回もしていることになるのです。

優勝後のインタビューで彼女は、「みんなで力を合わせて優勝できたことはうれしい。ただ自分のプレーには納得していません。今年も3冠が目標なので、それに向けて頑張ります。」と悔し涙を浮かべる姿が印象に残りました。まだまだ伸びしろがある選手だと思います。

平下結貴選手は、ミニバス時代私が毎年行く、静岡の5県対抗に愛知から来ていました。身体能力が高く、シュート力、ディフェンスとの対応力（ステップインや片手のフックシュートなど）がすば抜けていました。とても小学生と思えない選手でした。ちなみに姉の平下愛佳選手は、2年前のインターハイで優勝した桜花学園のキャプテンでした。現在、Wリーグトヨタ自動車アンテロープスに所属し（2020～2021の最優秀新人賞）、U19日本代表の選手でもあります。

惜しくも決勝で敗れた、大阪薫英女学院は1回戦から決勝の6試合を、ほぼスターターの5人で戦ってきました。特に準決勝の岐阜女子戦は大接戦となり、3Qで逆転を許すも都野選手、宮城選手のシュートが効果的に決まり、1年生の島袋選手がリバウンドでがんばり執念を見せ、最後57-56で勝利をつかみ取りました。

決勝では、特集号Ⅰで紹介しましたように桜花に敗れたのですが、素早い攻めと確率の高いシュート力、オールコートプレスはテレビで観戦した方の感動を呼んだと思います。また、桜花の朝比奈選手とマッチアップした、佐藤選手はボディアップしたディフェンスで朝比奈選手を苦しめました。最後は5ファウルとなりましたが、その健闘ぶりは称賛に値します。

最後に薫英と言えば、読者の皆さんの中には、40年にわたってバスケ部の監督を務めた、長渡俊一先生を想い出される方も多いと思います。残念ながら2014年に亡くなられたのですが、その後を現在の安藤香織コーチが率い、アシスタントコーチは奥様の長渡由子さんが当たっています。

次号に続きます。